

平成 23 年 12 月 5 日

各 位



【コード番号 8589 大証一部】  
代表取締役社長 野口 郷司

## クラウド版共同利用型 クレジットカード不正使用検知システムを導入 ～SCSK株式会社の「CARDSavior(カードセイバー)」を導入～

当社の連結子会社である株式会社アプラス(本社:大阪府大阪市、代表取締役社長:野口 郷司、以下:アプラス)は、本年 11 月より、クレジットカード業務におけるリスクコントロール機能の強化を主な目的として、SCSK 株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:中井戸 信英、以下:SCSK)が開発した共同利用型クレジットカード不正使用検知サービス「CARD Savior(カードセイバー)」を導入いたしました。

記

### 1. 導入の目的

アプラスでは、これまでもカード不正使用の防止対策について社内に専門セクションを設置し、24 時間 365 日体制でモニタリングを実施しており、一定の効果を上げておりました。今般の同システムの導入は、昨今の EC(電子商取引)サイトなどの非対面での取引をはじめとする、新たな傾向のカード不正使用被害の発生に対し、その防止をさらに強化するものです。

### 2. 導入理由

新たに導入する「CARD Savior」は、SCSK が、クラウド環境での共同利用型サービスとして開発したサービスです。アプラスが本システムを導入するのは、以下の主な理由によるものです。

#### (1) 不正検知精度の向上

・共同利用型システムにより、複数の参画会社での不正使用情報や不正発生傾向が蓄積されるため、スコアリングモデルの補正対応が適時行われるとともに、不正検知精度の向上が期待できます。

#### (2) 情報セキュリティの維持

・PCI DSS\* に準拠しており、情報セキュリティの維持が期待できます。

\*PCI DSS (Payment Card Industry Data Security Standard)・・・国際カードブランド 5 社が共同策定したクレジットカード情報を安全に保護するためのグローバルセキュリティ基準

#### (3) 低コスト化の実現

・クラウド環境でのサービス利用により、専用のシステム基盤として購入していたハードウェアやソフトウェアに対する初期投資やサーバー老朽化などに伴う定期的なリプレースコストの圧縮などが期待できます。

SCSK は、不正検知システムの分野においては、すでに十数年来の実績を持つ国内有数のシステム・ソリューション・カンパニーであり、同社におけるこれまでの不正検知システムのノウハウを最大限に活用した最新型が「CARD Savior」です。

### 【SCSK 株式会社の概要】

商号 SCSK 株式会社 \*  
代表者 代表取締役社長 中井戸 信英  
本社 東京都江東区豊洲 3 丁目 2 番 20 号 豊洲フロント  
上場取引所 東京証券取引所 市場第一部(証券コード:9719)  
事業内容 システム開発、IT インフラ構築・マネジメント、BPO、IT ハード・ソフト販売

\*住商情報システム株式会社と株式会社 CSK の合併により平成 23 年 10 月 1 日に発足

当社グループは、今後も新生銀行グループにおける消費者向けファイナンスの主要な子会社グループとして、お客さまに優れた金融サービスを提供することで、人々の豊かな暮らしづくりに貢献してまいります。

以 上